

学校現場を取り巻く環境が複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大する中、教員の長時間労働の現状が明らかになっています。

「将来を担う子どもたちによりよい教育を実践する」ため、愛媛県教育委員会及び各県立学校において、『まじめに』働き方改革に取り組んでいる様子をお伝えします。

ぜひご一読いただき、本県の学校における働き方改革につきまして、御理解、御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



1. 今月号のピックアップ

毎号、特徴的な取組、新たな取組等をピックアップしてお知らせしています。

今回は、令和4年11月に実施しました『県立学校教職員の意識調査』の結果について、お知らせします。

県立学校教職員の意識調査の結果（令和5年3月取りまとめ）

県教育委員会では、令和元年度から毎年度、愛媛大学教職大学院と連携し、県立学校教職員を対象に「働き方に関する意識調査」を行っており、令和4年11月に約4千人を対象に実施した調査結果をお知らせします。

学校における働き方改革については、「勤務時間の削減」だけでなく、教職員の「心身の健康」「学びの充実」「プロフェッショナルとしての誇りや働きがい」といった点に着目しながら取組を進めており、今回の調査結果及び過去4年間の傾向として、以下のような特徴を示しています。

<主な調査結果>

①成果指標に関するもの

- ・ 時間外勤務月 80 時間超過者の割合が着実に減少している
- ・ 教師自身の学びの実践（9項目の学びの実践の選択数）は、コロナ禍による研修の中止・延期等の影響で全体の選択数は減少していたが、令和3年度以降は増加（改善）傾向となっている
- ・ 本県教職員の働きがい（ワーク・エンゲイジメント）は、日本の民間企業の約 1.2 倍となっている一方で、令和5年度の数値は若干悪化傾向となっている
- ・ 本県教職員の抑うつ傾向は、年々悪化傾向となっている
- ・ 本県教職員の主観的幸福感は、民間企業の平均以上の水準をキープしている

【参考】各指標に係る回答状況

↗ 改善 ↘ 悪化

成果指標	R元	R2	R3	R4	状況
1. 時間外勤務月80時間超の教師の割合	調査 21.7%	20.2% ↗	17.8% ↗	17.0% ↗	時間外勤務月80時間(過労死ライン)を超える教師の割合は、減少傾向 ※意識等調査で把握した10月の全県立学校教職員の状況
	システム 25.3%	20.6% ↗	19.1% ↗	18.9% ↗	※勤務時間管理システムにおいて把握した11月の県立学校教諭の状況
2. 教師自身の学びの実践(9項目の学びの実践の選択数)	3.67項目	3.13項目 ↘	3.42項目 ↗	3.54項目 ↗	令和2年度は、コロナ禍による研修等の中止・延期等の影響により全体の選択数は減少したが、令和3年度以降は増加(回復)傾向 ※9項目の学びの実践状況(講座やセミナーへの参加、専門書を読む等)
3. 教職員のやりがい(ワーク・エンゲイジメント)	28.83点	28.35点 ↘	28.64点 ↗	28.26点 ↘	日本(民間企業)の平均(23.58点)以上の水準をキープ ※リクルートマネジメントソリューションズ(2019)「ワーク・エンゲイジメントに関する実態調査(N=624)」で平均値23.58点
4. 教職員の抑うつ傾向(メンタルヘルス)	5.36点	5.57点 ↘	5.62点 ↘	5.79点 ↘	抑うつ傾向は、年々悪化傾向 ※5点以上がリスク群、10点以上がハイリスク群
5. 教職員の主観的幸福感(ワーク・ライフ・バランス) ※10点満点	6.06点	6.06点 →	6.09点 ↗	6.05点 ↘	日本の平均(5.89点)以上の水準をキープ ※内閣府(2022)「満足度・生活の質に関する調査報告書」で平均値5.76点

②今後の学校現場におけるICT利活用場面の増加に対する不安(新規項目)

とても不安である	やや不安がある	どちらとも言えない	それほど不安ではない	不安はない
15.1%	34.1%	23.0%	20.8%	7.0%

・約半数(49.2%)の教職員がICT利活用場面の増加に不安を感じている

③その他分析結果(クロス分析等)

- ・抑うつ傾向は、リスク群とハイリスク群の比率がともに高く、懸念材料である
※リスク群：30.8%(R4)、ハイリスク群：21.5%(R4)
(一般成人18.7%) (一般成人10.3%)
- ・ICT利活用場面の増加に対する不安は、年齢が高くなるほど強く感じる傾向であるが、性別の差はあまりない結果となっている
- ・時間外勤務時間の長短と働きがい(ワーク・エンゲイジメント)との関連性は薄い一方で、長時間勤務は、抑うつ傾向を高め、主観的幸福感を低減させる傾向がある
- ・「学びの実践」項目の選択数が多い(学んでいる)教員は、働きがい及び主観的幸福感が高い傾向がある
- ・周りの人達との信頼関係は、各指標との相関関係が認められ、特に同僚との信頼関係が低いと、働きがいや抑うつ傾向を著しく低減させる傾向がある

県教育委員会では、調査結果等を基に、今後も取組を進めていきます。

